

カナダの金融市場動向 Weekly Report

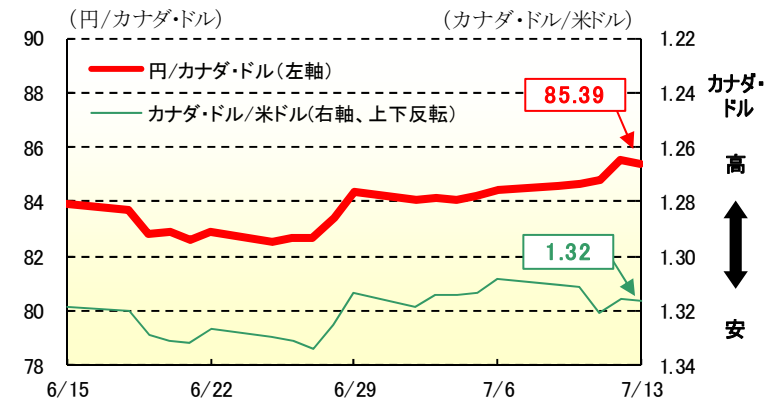
【2018年7月7日～2018年7月13日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは対円で上昇しました。また、カナダ5年国債利回りはおおむね横ばいとなりました。米国と中国での貿易摩擦懸念の弱まりがカナダ・ドル円の上昇要因となった一方、原油価格の下落などがカナダ・ドルの上値をおさえました。

11日(現地)、カナダ銀行(中央銀行)は政策金利を0.25%ポイント引き上げ1.50%としました。カナダ経済は堅調に推移しており、また足元ではインフレ圧力が高まっていたこともあり、市場でもおおむね利上げが予想されていました。カナダ銀行は今後も緩やかに利上げを実施すると見込まれる一方、声明文では米国との貿易摩擦を懸念する姿勢も示されました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年6月15日～2018年7月13日)



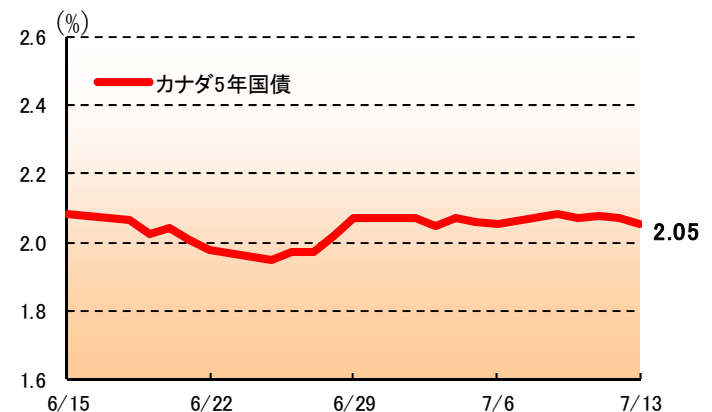
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週は、小売売上高やCPI(消費者物価指数)などの経済指標の発表が予定されています。これらが市場予想を上回る結果となれば、カナダ・ドルの上昇が期待されます。

カナダの産業大臣は、米国が鉄鋼およびアルミニウムに関税を課したことによつてだぶついた鉄鋼がカナダに流入していることに対応するため、カナダ政府が輸入制限や関税などのセーフガードを発動することを検討していると改めて述べました。このように、米国の保護主義政策の強まりがカナダを含む世界各国に影響を及ぼしており、今後の景気動向を見る上で重要性を増していると考えています。

【カナダ 金利推移】 (2018年6月15日～2018年7月13日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>